

農学部・農学研究科

I	研究水準	研究 9-2
II	質の向上度	研究 9-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、欧文原著論文数が年間約 500 件であり、教員一名当たり年間 2.5 件以上である。国際学会での招待講演や基調講演数は高い水準を維持している。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の獲得状況は、平成 16 年度以降常に 200 件前後の採択件数を得ており、採択率も高い。また、21 世紀 COE プログラム課題が 2 件採択されている。民間との共同研究が平成 19 年度には 53 件に達していることや寄付金が 1 億 9,546 万円に達していることなどが特記事項として挙げられることなどは、優れた成果である。

特に、学術面に関して、学術論文の質、数ともに優れており、科学研究費補助金などの外部資金においても高い獲得率であるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、バイオサイエンス分野における研究成果が数多く得られている。卓越した業績として、例えば、ウイルスの RNAi 抑制の新しいモデルを提唱した研究や、ミトコンドリアの子孫への伝達様式の解明、大豆貯蔵タンパク質の輸送シグナルの解析などが挙げられる。社会、経済、文化面では、例えば、食品安全システムの実践提唱などの取組がある。これらの状況などは、優れた成果である。

特に、研究成果については、卓越した学術論文を数多く出していることが第一に挙げられる。Nature 各誌、Science など超一流総合科学誌への掲載 10 件、インパクトファクターが 4 を超える専門領域のトップ雑誌 35 件など卓越した業績があり、学会の論文賞などの受賞論文、学会賞・奨励賞の対象となった論文が多数あり、特筆すべき状況にあるという点で

「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、農学部・農学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、農学部・農学研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。